

会報 安曇野教育

発行所 安曇野市教育会 発行日 令和3年 12月 14日

第71号

発行人 松尾 修 題字 川田 殖

勉強したのは私たち

常任委員長 志村 昌之

この時期、卒業式、入学式に向けて、パンジーやビオラを育てている先生方、学校もあるかと思えます。冬の寒さにも耐え、土が凍っても、大雪の下でも育ち、春には色とりどりの花を咲かせ、私たちを楽しませてくれます。

私も担任した学級で、「お世話になった6年生のために」「来年入学してくる1年生のために」ということで取り組んだことがあります。図鑑などでどんな花がいいか調べ、「パンジーやビオラがいい」と決めて栽培が始まりました。種をまき、ポットやプランターへ植え替えて育てていきました。卒業式に間に合わせるには室内で育てる方がいいということで教室に置きましたが、アブラムシの発生でひやりとしました。花が咲き始めた頃、「最初に咲いた花を摘むと、あとでたくさん花が出てくる」ということを聞いた子どもたちですが、「もったいない」「かわいそうな気がする」「大丈夫かな？」などと心配する声もありました。理科専科の先生に聞いたり図鑑などで調べたりして確かめ、花を摘むことになりました。3月に入り花数も増えて子どもたちも一安心でした。そして、卒業式、入学式を彩ることができました。

まとめで、「きれいな花が咲いて喜んでもらえたと思います。いろいろ調べたり、友達や先生に聞いたりして、パンジーのことがいろいろわかりました。寒い中での植え替えもみんなでがんばりました。『6年生や新1年生のために』を合言葉にやってきましたが、よく考えてみたら勉強したのは私たちの方だったのかもしれないと思いました」という感想がありました。「他者のために」ということの大切さを学んでほしいと期待した私の思いを超え、自らのあり様にも思いを致らせた子どもたちでした。

私たちは、子どもたちの学びや育ちために学び続けることが求められ、日々、研修に努めていますが、それらを通して私たち自身も多くのことを学んでいると感じることがあります。教育会には、調査研究、実技講習、同好会など、多くの研修の場があり、子どもたちや私たち自身の知性や感性を育み、磨いていくことにつながっていきます。集まり、語り合い、知恵を出し合っていきましょう。

会報 安曇野教育 郷土文化財四十八

「闖入者」 下條 周信 作

下條周信先生は豊科近代美術館で第二代館長を務めた方で、牛を四十年余りに渡って描き続けた「牛の画家」として知られています。先生は、多くの画家に師事し「物の形の中に美を見ること」「大きさの表現」

「調子の組み立て」等の教えを学びました。先生の描く牛は、横に群れを成し、個体の境はわずかな輪郭で描かれ、それぞれの牛の「目」だけが強調されたかのような画風です。大会議室前に展示されています。

(郷土文化財センター運営委員会)



<安曇野往来>

「学び合う文化を」

11月22日、県の同好会である「生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会」主催の県大会（松本大会）を信濃教育会、松本市教育会等にご後援いただき、無事に開催することができました。コロナ禍による運営面の制約はありましたが、会場となった 学校、 学校の充実した実践に学ばせていただき、有意義な1日となりました。

大会運営の中核を担った松本支部では、17名の有志による実行委員会を立ち上げ、昨年度から準備を進めて参りました。私たちの一番の願いは、大会を無事に開催することのみならず、実行委員として集った仲間との絆を大事にし、学校の枠を超えた仲間と共に学び合う松本支部の日常活動を活性化することでした。そのために、参観した授業を通して学んだことを1人1人がまとめ、支部の仲間と意見交流し合う場をもちました。自らの実践と重ねながら時間を延長して語り合い、解散後もあちらこちらで立ち話が続けていました。先生方は、このような仲間と共に学び合える機会を求めていらっしゃるのだと改めて思いました。

教職員が自主的・主体的に学ぼうとする機会を築いていく基盤としての教育会の役割はとても大きなものであると思います。様々なことを言い訳にして事業を縮小するのではなく、信州教育として受け継がれてきたこの文化を、より一層充実させていきたいものです。



工夫すればできること

小学はかつて村立でしたが、16年前の合併に伴い現在に至っています。また、7年前の神城断層地震によって校舎が使えなくなった 中学校と校舎を共用している状況で、同じ校舎で小学1年生から中学3年生までの児童生徒と一緒に学校生活を送っています。今年度の児童と生徒の合計は31名、小学校は全学年複式（1・2年、3・4年、5・6年）で授業を行っています。

少人数故にできないこともあります。少人数だからこそできることを工夫していこう」「少人数だからこそできる教育をしていこう」という気概があります。複式の授業は困難なこともあります。子ども達だけで授業を進めていく場面が増え、主体的に学習する姿勢を身に付けることができます。小学生にとって中学生と学校生活を共にすることは、自分達の成長を見通しやすくなっているように感じます。

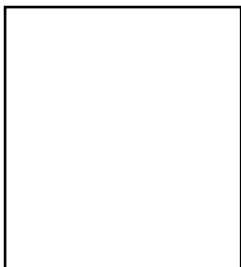
また、web会議システムを利用した山間小規模校間の合同授業や、臨海学習の複数校合同実施を始めました。これらの活動を通して、多様な意見や考え方の中で学習を展開できるように工夫しています。

与えられた環境や条件の中で、工夫してより良い教育を実践しようとする姿勢は、コロナ禍であっても通用するもののように思います。児童・生徒数が減少していく傾向を踏まえると、更に難しい状況もあるでしょうが、与えられた環境や条件を踏まえて精一杯の工夫と努力を重ねていこうと考えています。





楽しく 明るく



長野県体育センターは、昭和53年(1978年)、第33回国民体育大会(やまびこ国体)の開催を契機に、「県民みなスポーツ」の気運に応じて、翌年の昭和54年(1979年)4月に松本運動公園(現松本平広域公園:信州スカイパーク)内に設置されました。

歴史ある体育センターに勤務しておりますと、朝からマレットゴルフ、昼間はお散歩やテニス、夜はランニングなど、老若男女の皆様が自ら主体的にスポーツを楽しんでいる姿をたくさん見ることができます。まさに「県民みなスポーツ」の気運を感じ取ることができる、ここ松本平広域公園ですが、令和10年(2028年)に長野県で開催が予定されている「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」に向けて大規模な改修工事に入ることになりました。新しい施設ができることへの期待と喜びを感じると同時に、体育センターが松本平広域公園から移転していくことへの寂しさも感じております。「諸行無常」世のすべてのものは、移り変わり、永遠に変わらないものはないというのが人生ですので、様々な変化を前向きに受け入れていきいと考えています。しかし、私自身変えてはいけないと考えていることは、「スポーツ」の語源でもある「楽しむ・遊ぶ」といった心の持ち様です。体育の目標でもある「楽しく明るい生活を営む態度を養う」ためには、まずは、私自身が、この変化の時代を楽しく明るく生きている姿を見せられるように今後も努力し続けたいと思います。



～憧れ～

今年4月から、 中学校に在籍しています。新規採用から8年目になりますが、私の原点は安曇野市にあります。母校である 中学校で8年間、
中学校で1年間の計9年間を講師として、様々な経験を積ませていただきました。



大学を卒業して間もない自分には、毎日が刺激の連続でした。教科指導では空き時間に先輩の授業を参観し、同じように授業をしても上手くいかず、『自分の言葉』で生徒と向き合わなければ伝わらないことが理解できるまでに1年以上かかりました。直接的な生徒指導の裏には、個別に寄り添った声掛けや過ごす時間、ケアが必要不可欠であること、同僚とのコミュニケーションや他愛もない会話が人間関係をつくること等々…大学では教えてもらえない、教科書には載っていない本物の教師(先生)が、私の一番近くにいてくださいました。その先輩とできるだけ同じ時間を共有したいと、いつも「何を話すのか、どう振舞うのか」に注目していました。

私は今、あの頃憧れた先輩の年齢を超えてしまいましたが、今なお手の届かない偉大な憧れの存在です。そんな先輩にこれから少しでも近づき、いつかまた、同じ学校で働きたいということが、私の目標です。



< 実技講習会報告 >

7月30日(金)、感染症対策のため半日開催で行われた。遠方の講師にはZoomでご指導いただく等、工夫が見られ充実した講習会となった。約360名の参加者からは、「2学期以降の授業に取り入れてみたい」「講義などから初めて知ったことへの驚きがたくさんあった」「各校の様子を聞き合うことができ有意義な時間となった」等、多くの感想が寄せられた。



講習会名	講習会名
「朗読」～基礎を学び、実技講習～	道徳授業についての授業構想・模擬授業
堰の歴史を学ぶ【上下水道を学ぶ】	ポジティブな行動支援・ポジティブな道徳カード
数学的に考える資質・能力を伸ばす授業づくり	貞享義民記念館・貞享騒動の史跡巡り
ニジマスの卵の観察・ハムスターの毛色の遺伝	主体性の評価に焦点を当てた外国語の授業づくり
感じよう・深めよう・分かち合おう～コロナ禍での音楽学習～	Google Workspace for Education の活用事例
涼やかな夏を演出～ガラスのリユーター・絵付け体験	バーバリウムで心に彩りを
伝達講習（幼児の運動遊び・表現運動・陸上運動等）	ソーシャルスキルの考え方、実際の様子、留意点
ブルートゥーススピーカーの製作	黒沢洞合自然公園から学ぶ
家族みんなが笑顔になるアロマセラピー	

＜同好会研修日報告＞

10月27日（水）、同好会員を中心に各会場にて行われた。「短時間であったが、専門性を高めるための良い機会であった」との感想が多かった。感染症の影響で夏の講習会では中止となった哲学同好会が開催され貴重な学びの場となった。

内容	内容
県国語教育研究協議会に向けての授業づくり	ポストコロナの世界で、木村素衛先生の思想に即して考えたいこと
信州社研安曇野大会と授業について	不登校等の予防と初動対応について
算数数学中信ブロック大会に向けて	臼井吉見先生を深く知ろう
信州理研安曇野大会に向けて	Let's use Chromebook
タブレットを使った音楽の授業について	eライブラリアドバンスをより詳しく使いこなす
長野県児童生徒美術展出品作品の地区審査	C4th 保健機能「えがお4」の研修
体育授業の基本	特別支援（通常級でも）で使えるカードゲームの紹介と実践
県ものづくりフェア出展作品選考会	コロナ禍での生活・総合的な学習の実践は・・・
考え、議論する道徳の授業を見てみよう	

＜東西南北＞

「東西南北の風が吹く」 営みをつなげるために

今回、雑誌「信濃教育」第1620号（令和3年11月）「我が教育会の取組『東西南北の風が吹く～安曇野市教育会の取組～』」の編集委員の1人にさせていただいた。文のまとめには、「これからの教育会・私たちの研修のあり方を自らに問い返し歩んでいきたい」ことを3点記した。その1つが『私たちが個々の営みをつなげたり、広げたりしているか』しかし、「つなげたり、ひろげたりすること」はとても難しいことであると感じていた。

今回、私が1番参考にした文献は、『南安曇教育会百年誌』今から、34年前新卒の時、たくさんご指導いただいた同じ学年のE先生に「きつとな、この本いつかあなたに役立つときが来るから、買いなよ」と言われ、何も考えず購入した本だった。E先生は本の執筆を担当されていた。しかし、本は自宅の本棚に入れられ、以降一度も日の目を見ることがなかった。

原稿を編集・執筆するにあたり、この本とE先生を思い出し読み始めた。当時の私は、過去のものが、目の前にいる子どもとの毎日にいったい何の役に立つのかと思い、片隅に本を追いやったのだった。しかし、今になって、これまで自分が『きつといつかあなたに役に立つ』ことを、共有したり、そう言えるような取組をしたりしてきたかを考えている。この文章が、会員の先生方にとって「きつといつかは役に立つ」「営みをつなげる」「東西南北の風が吹く」ことにつながれば、今は亡きE先生への恩返しになるかもしれない。



＜編集後記＞

今回は各地に赴任されている先生方にご寄稿いただき、それぞれのご活躍の様子をお伝えしました。懐かしい先生方を近くに感じていただける時間となれば幸いです。現在、コロナがだんだんおさまってきています。2022年は「普通」の1年が迎えられ、明るく希望のもてる年になることを祈っております。皆様、よいお年をお迎えください。